

令和6年4月

令和6年度 神戸中学校

学校経営の改革方針

1 めざす学校の姿

【学校教育目標】

仲間とともに心豊かに生きる生徒の育成

【めざす学校像】

ともに学び、支え合う学校

【めざす子ども像】

- 確かな学力を身につける生徒
- 自他を大切にし、互いの良さに目を向け、
違いを認め合う生徒
- 互いに支えあい、仲間と豊かにつながりあう生徒

2 経営の改革方針

本市の重点対策事項4つ（学力向上×ICT活用、長期欠席対策、地域連携、非認知能力育成）を念頭に、次の3つを基に学校経営を行う。

1 「学び」： “発見・驚き・気づき” のある課題 “参加・交流・居場所” のある授業

- 子ども一人ひとりの状況を正しく理解し、子どもの発見、驚き、気づきを引き出す取組を推進し、参加、交流のあるわかりやすい授業づくりをすすめる。
- 基礎基本の定着および学習規律の確立を図る。
- 言語活動の充実を図り、夢中になれる授業づくりから、「学び合う」（深い学び）授業実践をすすめる。

2 「人権」：お互いの良さに目を向け、違いを認め合う心

- 特別支援教育、人権教育の視点を重視した教育活動の推進を図り、いじめを許さず、解決に向けて行動できる集団づくりを推進する。
- 人とのつながりを大切にし、互いのよさを認め合う集団づくりを推進する。
- 薬物乱用防止をはじめ、「命」を大切にする教育の推進を図る。

3 「結」：お互いに支えあい、繋がりあう集団

- 保護者、地域との信頼関係を確立し、地域とともにある学校づくりを推進する。
- 一人ひとりの教職員との対話を通じ学校組織力を高める。
- 教職員や保護者等への情報発信を通じ学校理解を得る。
- 神戸中校区の各小学校と連携し、教員研修を開催する。
- 学校満足度アンケートによる検証を実施し教育活動の継続的な改善をすすめる。
- 学校運営協議会の熟議を通して、学校経営の改善につなげる。地域に愛され、めざす学校像を実現するため、全職員が心を合わせ、教育に取り組めるよう組織的な学校運営を行う。

3 達成方策

◆学力向上×ICT活用

- (1) 授業改善に継続して取り組み、生徒を取り巻く様々な課題に対しての教職員のスキルアップを図るための研修を実施していく。
- (2) 1、2年生数学科における習熟度別学習を継続実施する。
- (3) 校区小学校と指導教諭及び学力向上担当者が定期的に学力向上プランを協議し、連携を図る。
- (4) クロームブックを通信手段として、他校との交流またはキャリア教育進めるツールとしての使い方を模索する。

◆長期欠席対策

- (1) 長期欠席、不登校の現状、改善方策など教職員間での情報共有を緊密に行い、対応策を練る。
- (2) 長期欠席、不登校の改善に向け、関係機関等との連携を図り、個別の支援策に取り組む。また、小中連携が必要なケースには連携を行い、支援策を検討する。
(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、適切な生徒理解をすすめる。)
- (3) 校内支援教室、通級教室等の運用を柔軟に行うことで、未然防止及び生徒の状況に応じた登校の機会を設けていく。
- (4) 「発達」等に課題を抱えた児童の特性を深く理解し、関係機関と連携した支援・指導体制を確立していく。

◆地域連携

- (1) 地域との連携をよりよくし、学校運営協議会における熟議や学校支援ボランティア活動の充実を図る。
- (2) 地域への情報発信を通じ、学校理解をすすめる。
- (3) 中学校区合同学校運営協議会を開き、小学校学校運営協議会との連携を図る。
- (4) 本年度より校区の1小学校と、同日に生徒の保護者への引き渡し訓練を行う。引き渡し業務を学校運営協議会委員にも担っていただく。

◆非認知能力育成

- (1) 非認知能力を中学校の教育活動の中で育成していくため、校内研修の中でも位置づけ、教職員間での具体的な取り組みを練る。
- (2) 校内研修主題とも絡めた社会性をはぐくむため、学年行事、学校行事などの中で意識的に仕込んでいく。